

《日中国交40年》Ⅱ 未来を見つめて

「京論壇」と「PUKU」――

学生の率直な討論から新しい関係を

中国活動家 張一氏らに聞く

IではODAを中心に国交40年の日中交流の実績を中国人ジャーナリストの目から伝えてもらったが、IIではこれから

は講演委員会の主催でさる4月20日、北京大学OBの張一（姜晋如会員のご子息）、東京大学在学中の高浪皖、光島香織の3氏を招いて、両大学の交流について報告

張一氏は北京大学在学中の2005年、日本の東大との学生同士の討論の場である「京論壇」に参加、積極的に活動した中心人物である。「京論壇」とは東京と北京の2つの「京」からの命名である。

両大学の学生それぞれ10数名が東京と北京に1週間ずつ滞留して、現地でのフィールドワークを交えながら日中両国をめぐるさまざまな問題を忌憚なく話

し合うのがこの論壇の目的である。それだけならほかにもありそうだが、この企画には工夫があった。普通二つの国の人間が話をする場合はどちらかの言語を使うか、あるいはそれぞれの通訳を介して自国の言語で話すことが多いが、「京論壇」では双方ともに英語を使うというのが独特のアイディアである。

日中どちらかの言語を使えば、母国語を使うほうが圧倒的に議

論しやすく、他方はそうでないので、十分な討論ができない。また通訳を介するのでは直接の議論にならないというわけで、公平かつ直接の討論のために第三国の言語である英語を使うことにしたという。

「京論壇」はこれまでに6回開催されたが、討論テーマは歴史認識、安全保障と軍事問題、環境問題、日中経済、ビジネス文化、食糧問題、メディア、教

育、ジェンダー、経済格差など多岐にわたる。昨年のテーマは「幸福と発展」、「移民」、「国際政治」の3つ。参加者はそれぞれいづれかのグループに属して、心ゆくまで討論する。

ただこれらのテーマを見ると、日中間のいわゆる「敏感な」問題、靖国神社参拝、尖閣諸島、あるいは毒入りギョウザといった両国世論が対立する問題点を避けている印象があるが、その点を聞いてみると、3人の答え



説明する高浪皖氏



張 一 氏

は次のようなものだった……

「京論壇」がスタートしたのは丁度、日本の小泉内閣の時代であったので、当然、靖国神社の問題も取り上げられた。しかし、そういうテーマになるとどうしても双方とも熱くなくて、討論というより言葉の投げ合いになってしまう。

それでは折角の場が意味を失ってしまうので、そういうことから国家間で対立する問題は取り上げず、両国の学生どうし価値観をぶつけ合って、互いについての理解を深めることを重点にするようになった。2週間、共同生活を送るわけだから、生活習慣の違いなど、普通では分からないところまで理解しあえるようになる……。

ところで「京論壇」への参加

希望者は多いのか少ないのか。

北京大学には260もの学生サークルがあり、中には中日交流を目的とするサークルもいくつかあるが、「京論壇」は英語で討論ができないかならないという条件があるにもかかわらず、毎年、希望者は参加予定者の10倍にもなり、主催学生が模擬討論などを行って英語は勿論、協調性や指導性などを審査して選抜するという。東大でも10倍とはいかないまでも、やはり希望者はかなり多く、選抜が行われるということだった。

ところで「京論壇」に参加した学生たちの卒業後の進路は、というと、多くは両国関係とは全く関係のない仕事なり研究なりの分野に進むという。意外な感じもするが、考えてみればさまざまな分野に相手国と相手国の人間について、体感的に理解している人材が増えることは大いに望ましいことと思える。

東大との「京論壇」がグローバル、あるいは普遍的なテーマ



を掲げての討論を主とするのに

対して、張一氏が2009年に新たに京都大学との間に立ち上げた「PUKU」はより具体的なテーマを共同で研究し、その成果を社会に還元しようという実践的な活動を目的としている。「PUKU」とは奇妙な名前だが、Peking University と Kyoto University の4つの頭文字からの命名だそうである。

そこで2010年と2011年の活動では、京都と北京という両国の重要都市に焦点をあてた「都市問題」をメインテーマに掲げて、総合的な討論をおこなった後、参加者を伝統、環境、

農業の3部会に分けて、フィールドワークを実施した。たとえば伝統の部会では京都の町屋、北京の四合院といった伝統的な文化をいかに保護し、伝承してゆくかといった問題、また環境では町の交通状況と環境保護、農業では少子化にともなう農業従事者の高齢化といった問題について両都市の共通点と相違点を明らかにして、調査レポートをまとめたという。

北京大学では、その結果を学内の展示で発表したのが、写真で見るとおりかなりの学生の関心を集めた。「京論壇」「PUKU」はともに今年も開催される。

